

# アクティブ校内研修で学力向上!

従来型の校内研修を見直し、アクティブ・ラーニングを促す校内研修にしてみませんか? ここでは、戸田第二小と笹目東小の校内研修を紹介します。



付箋に考えを表し、模造紙に整理します

## I つぶやきあえる小グループでの話し合い

**I-①** 日頃語り合う機会をもつことが難しい教員が同じグループとなるように、グルーピングを検討しておきます。

**I-②** 8~10人のグループになると、特定の人のお話が長くなりがちになります。互いに配慮し、話し合いが深まる人数は3~4人です。



小グループでの話し合いが自分の授業デザインを見直す機会になります

**I-③** 一つのグループの話し合いで終わりではなく、ジグソー法などグループを変えて協議し、違う視点を得られるようにします。

**I-④** 学校外から研究協議に参加する方がいる場合、グループ協議に参加してもらうことにより、情報交換の場になります。

**I-⑤** 協議の口火を切るきっかけとして、付箋や模造紙に書き出し、可視化した意見をもとに協議することも工夫の一つです。

**II-④** 最後に助言者・指導者が協議で出された論点について、意味付け、価値付けを行うようにします。

**II-③** 参加者が自分の授業をどのようにつくっていくかという視点での振り返りが必要です。

<付箋を書くときのルール>

①一つの付箋にひとつだけの事実やアイデアを簡潔に書く。「1付箋1事項」

発問~は児童の学び合いを促進した。

他の児童にもわかったことを伝えさせたい

※抽象的な表現は避ける ×「もっと見やすく～」 ○「色チョークを使って」

②黒・太字のペンを使って書く

	成果	課題
導入	ICTの活用 めあてが明確	板書 生かすまとめ方↑
展開	場を設定(人数)	発問 ← 問い返す工夫 導入を短く(十分だった) ↓ 時間配分
終末	課題と正対したまとめ	

分類する際には、色マーカー(赤・青)で囲み、小見出しをつける。 中には余ってしまうものもあるが、改善のヒントとして残す。



戸田第二小学力向上プラン「研修体制の工夫」から、『付箋を書くときのルール』『付箋シートの工夫』

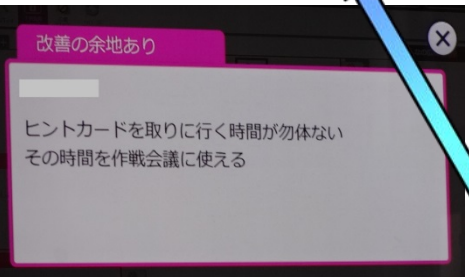
## II 今後の授業デザインを意識した振り返り

**II-②** ミライシードを協議で活用し、互いの意見を可視化することも工夫の一つです。

**II-①** 授業で何を観て、どのように感じ、考えたのかを協議することで、次につながる授業デザインを考えるようにします。



4人の考えをムーブノートに表しています



笹目東小では、ミライシード・ムーブノートを活用した校内研修が実施されています。

信頼される学校づくりに不可欠なのは、「校内研究(研修)」の充実・活性化です。学校の質の高さを示す指標と有意な連関があるものを以下に示します。

- ①校内研究年間スケジュールを前年度に策定している。
- ②校内研究組織において、全員の役割が明確化している。
- ③全教科で実践できる研究内容になっている。(中学校)
- ④全学年で実践できる研究内容になっている。(小学校)
- ⑤学校全体に加え、個人でも研究テーマを設定している。
- ⑥全員が研究授業を実施している。
- ⑦教科部会で指導案検討をしている。
- ⑧指導案を管理職が直接指導している。
- ⑨研究発表会を実施している。